

令和元年度普及指導活動外部評価の結果と対応

島しょ農林水産総合センター大島事業所 大島普及指導センター

課題名	総合評価	評価できる点	改善すべき点	対応策
<p>大島におけるアシタバ、サヤエンドウの生産拡大と安定出荷</p>	<p>B 〈評価内訳〉 A 3人 B 2人 C 1人</p>	<p>J A支店廃止という状況下で、高齢化、担い手不足で年々出荷量が減少傾向にあるアシタバ、サヤエンドウの安定出荷体制及び産地力強化を普及指導の重点課題として取り組んだ。</p> <p>(1) アシタバ：①生産組合と協力し、安定的な出荷量を算出し、首都圏の出荷先の市場価格調査等を踏まえて、13市場に絞り込み、出荷規格を作成、目揃え会を実施する等安定出荷をめざした。②生産者の高齢化、出荷量の減少に対し、新規出荷者の掘り起こし、品質向上のための土壌病害虫対策等の技術指導、講習会などを実施、一定の成果を上げた。③新品種「東京スカーレット」を導入し、アシタバの品種特性をアピール、市場性を高め、産地力の強化をめざしている。</p> <p>(2) サヤエンドウ：①年々減少傾向にある出荷量を高めるために、収穫・選別作業が容易なオオサヤエンドウの導入をめざし、試験研究部門と連携し、在来オオサヤエンドウの固定化、自家採取マニュアルの作成による栽培技術指導を行った。②出荷先の見直しを行い、キヌサヤエンドウ（1市場）、オオサヤエンドウ（2仲卸業者）市場を絞りこみ出荷安定を図った。</p>	<p>新品種については、なお一層の品質向上及び実需者のニーズを把握しながら適切なマーケティングの指導が必要である。新品種が伝統的なアシタバ、キヌサヤエンドウ生産農家や新規就農者に対して、いかに経営的魅力をアピールするかである。</p> <p>(1) 「東京スカーレット」を大島の特産物として、市場での差別化をねらうのか、他の島にも普及定着を促進し、島しょ全体の特産物として販路を拡大していくのかの見極めが求められる。種苗の安定供給体制が重要な課題になる。</p> <p>(2) オオサヤエンドウの食味、商品特性などなおキヌサヤエンドウとの比較のための実需者の意向調査、直売所などでのアピールが必要である。</p>	<p>大島町の農業産出額は、369百万円（平成29年産 都農林水産部調べ、以下同 単位は百万円）であり、花きが221、次いで野菜が106になっている。野菜では第1位のアシタバが41、第2位のサヤエンドウが14であり、野菜の農業産出額を支える主要品目になっている。</p> <p>今後は、若い農業者の育成や加工品の開発等にも取り組みながら、大島の農業生産を支えるアシタバ・サヤエンドウの生産振興を図って行く。</p> <p>(1) アシタバ「東京スカーレット」は、大島事業所が育成した新品種であり、平成31年2月に品種登録された。機能性成分であるカルコンの含量が高く、葉柄部が赤色であることが特徴である。令和元年度、伊豆大島アシタバ生産者組合の農業者4戸で試作を開始したばかりであり、収穫が始まる次年度以降、販売先の実需者から品質や評判等の情報を集めながら、適切なマーケティング指導に努め、農業者や関係者と共に新品種の販売戦略を構築していく。</p> <p>(2) オオサヤエンドウを含むサヤエンドウについては、収益性を示し担い手の確保と共に、露地栽培から施設栽培への移行を促し、栽培環境改善と栽培技術向上による生産の維持拡大を図っていく。なお、令和元年度には都の「地域特産化の推進」事業を利用して、15aのストロングハウスが新規導入されている。</p> <p>また、大島町に伝わる遺伝資源から選抜したオオサヤエンドウについては、地方市場から取引拡大を望む声もあり、実需者の意向を確認し、生産者にとっても、消費者にとっても魅力ある商品となるよう育成する。</p>

総合評価 A：高く評価できる B：概ね評価できる C：見直しが必要

その他の自由意見

J A廃店にともない、(一社)伊豆大島農業生産組合が設立されたが、普及指導センターには、若い後継者の育成事業や島の資源を活用した6次産業化、観光事業など町全体で取り組む総合的な農業支援を期待したい。

令和元年度普及指導活動外部評価の結果と対応

島しょ農林水産総合センター大島事業所 大島普及指導センター新島分室

課題名	総合評価	評価できる点	改善すべき点	対応策
新島村における生産農家育成と農産物の生産拡大と開発	A (評価内訳) A 6人 B 0人 C 0人	<p>(1) 村内の地産地消の確立を基本的姿勢に、島内販売野菜の新作型について3年間で8作型の試作検討を行い、栽培の難易度、島内での需要をもとに、ジャガイモ(秋作)、長ナス(露地早熟栽培)、スイートコーン(露地早出し)、トマト(半促成加温)、イチゴ(促成栽培)が有望と判断し、栽培技術指導を行い直売所や学校給食等への販売が促進された。</p> <p>(2) 生産者の高齢化による離農で、生産者数、生産量、出荷量が減少傾向にあったアシタバの加工品を6品目開発し、販売活動を指導、島の土産品として定着してきた。</p> <p>(3) 焼酎原料として出荷されてきたアメリカイモの安定生産をめざして栽培マニュアルを作成、優良系統の選抜などを関係機関と連携して取り組んだ。「生産者がある価値に気付いていない地域資源に光を当て」商品化に結びつける取組として高く評価した。</p>	<p>(1) 島の特産品とするなら、苗の安定供給も普及事業の中で考え、安定した収量を確保していくことが求められる。</p> <p>(2) 大島班と協力して、アシタバ加工品や、上記の野菜類を、“島の野菜”として都内の直売所や学校給食などに計画的に出荷する体制を確立するべきではないか。</p> <p>(3) 原料イモとしてだけではなく、生食としても消費者に認知してもらうためには、島内外の直売所や各種イベント等でアピールする機会を増やすことが必要である。</p>	<p>新島村における販売農家は2005年からの10年間で75%減少しており(農林業センサス)、伊豆諸島の中で最も担い手の減少が著しい。このような厳しい環境の中ではあるが、これからもアシタバやアメリカイモなど特産物の高付加価値化による収益確保や、地産地消の推進による農業生産の維持発展をめざして普及活動に取り組んで行く。また、未だ認定のない指導農業士の認定を農業委員会へ働きかけるなど、担い手育成に対する組織的な活動についても支援を行う。</p> <p>(1) 苗の安定供給については、新島村が運営する「新島ふれあい農園」を拠点とした生産流通の活性化に取り組む。新島村役場と連携し、新作型等の導入に対応した野菜苗の安定供給及び生産技術改良を指導する。</p> <p>(2) 島外の直売所や学校給食等への出荷については、アシタバ等のまとまった生産量が見込める品目やその加工品について検討する。</p> <p>(3) アメリカイモについて、現在は主に島内で加工製造される焼酎原料として利用されているが、上記の島外出荷対象品目としても検討していきたい。現在、焼イモを生産販売する都内業者からも引き合いがあると聞く。</p> <p>引続き、農業者や関係団体・関係機関を支援するとともに、商工・観光諸団体との連携にも努め、様々なメディアを活用してさらなるアピールに努めて行く。</p>

総合評価 A：高く評価できる B：概ね評価できる C：見直しが必要

その他の自由意見

- (1) 新島村、神津島村の二行政区域をカバーする普及活動は大変な苦勞が多いと思うが、関係機関とよく連携が取れた活動を高く評価した。
- (2) J A 廃店の下で、専門農協としての営農指導が手薄な状況にあり、今後、指導農業士の育成とパートナーとしての連携が必要になるろう。

令和元年度普及指導活動外部評価の結果と対応

島しょ農林水産総合センター三宅事業所 三宅普及指導センター

課題名	総合評価	評価できる点	改善すべき点	対応策
三宅島施設園芸 野菜の安定生産 による収益確保	A (評価内訳) A 5人 B 1人 C 0人	<p>噴火前は島の代表作であったレザーファン等の切り葉類は火山性ガスによる被害を受けやすいことが判明、試験研究部門と連携し、ガスに比較的耐性のあるキキョウランおよびパッションフルーツを選定、栽培技術と品質向上の普及指導を行い島の新しい特産品として定着しつつある。また、生産者組織の育成支援による島内外への販路拡大も進んでいる。</p> <p>(1) キキョウランの収益向上：農家圃場での病害虫発生状況調査を実施、病害虫のステージ別の薬剤防除効果を考慮した防除暦を作成、徹底した防除と適切な栽培管理、適期収穫の指導により収穫量向上が図られた。</p> <p>(2) パッションフルーツの安定生産：部会の定期開催、会員間の圃場巡回視察を支援し、栽培技術の情報共有や意見交換の場を設定、生産者の意欲を高めた。今後の技術的課題（夏季の高温障害、垣根栽培、年2回出荷）を明確にし、試験研究部門と連携、安定生産をめざしている。また、生産者支援による販路拡大についても、島内販売では夏祭りやイベントでの果実やジュースでの販売促進、都内直売所（北多摩4カ所）及び都外（群馬県みなかみ町）での島外出荷販売が実現。また、加工原料としての販路拡大（日本果汁（株）及び宝酒造への安定出荷）も定着してきた。</p>	<p>(1) ビクトリーブーケの葉物花材としての評価が高いが、さらなる品質向上のための病害虫防除技術等の指導とともに、キキョウランに続く基幹作物になる切り葉・切り枝品目の探索が求められている。</p> <p>(2) パッションフルーツに魅力を感じる島内の生産者や新規就農者を増やすためには、施設化など初期投資支援と共に、圃場での高度な栽培技術についての講習や就農後の個別指導等、長期的視点での普及指導に力を入れることが必要である。</p>	<p>三宅村における農業産出額は平成20年からの10年間で19%増加した（都農林水産部）。一方、伊豆諸島全体では17%減少しており、平成17年、噴火後の帰島開始以後、これまで実施してきた農業振興対策事業の成果が着実に表れている。これからも三宅村の産業振興・地域活性化に寄与できる効果的な普及活動を展開して行く。</p> <p>(1) 昨年、新規就農した青年がヒサカキの生産を開始した。三宅島の環境を活かした持続性の高い農業生産の実現を支援するため、令和2年度普及指導計画において新たにヒサカキの短期課題を設定した。</p> <p>また、キキョウランに加え、コルディリーネ、ドラセナなど特産切葉の生産維持拡大を支援するとともに、三宅事業所の試験研究担当と連携し、新規切葉・切枝品目の導入を検討していく。</p> <p>(2) パッションフルーツ生産者の高齢化に対応するため、三宅事業所の試験研究担当と連携し、省力化と収量増を同時に高めるための技術開発を進めていく。また、令和元年には就農希望者が三宅村でのパッションフルーツ生産による新規就農を目指し、指導農業士らによる3年間の長期研修を開始したところであり、普及指導センターではこれからも重点的な指導対象と位置付けて指導を継続して行く。また、生産部会や三宅島営農研究会の機能強化を働きかけ、多様なニーズに対応できる出荷販売体制の構築を模索して行く。</p>

総合評価 A：高く評価できる B：概ね評価できる C：見直しが必要

その他の自由意見

パッションフルーツの出荷先については、大手取引先だけでなく、島内外の直売所や学校給食等への小口需要にも計画的に対応できる出荷体制の確立も検討課題になる。

令和元年度普及指導活動外部評価の結果と対応

島しょ農林水産総合センター八丈事業所 八丈普及指導センター

課題名	総合評価	評価できる点	改善すべき点	対応策
今後の八丈島を担う農産物の生産拡大と販路の確保	A (評価内訳) A 6人 B 0人 C 0人	<p>八丈島は、アシタバ、切葉類や観葉鉢物が主力品目であるが、それ以外でも島の気象条件をいかして収益性を見込める作物を絞り込み、栽培技術の向上及び島内外に向けた供給体制を確立する取り組みを重点課題とした。</p> <p>(1) 八丈フルーツレモンの生産拡大：昭和15年に導入された「菊池レモン」のブランド化をめざす取り組みである。①樹上で完熟させ、かつ重さ150g以上で施設栽培したものを「八丈フルーツレモン」と定義し、出荷規格を作成、その他は「菊池レモン」としてそれぞれの販路の開拓・定着化と組織活動を支援した。</p> <p>②栽培技術向上のための病害虫防除対策などの栽培マニュアルの作成等で、高品質化、高収量生産の目標を超えることができた。</p> <p>(2) キキョウランの安定生産：レイ・プランツに代わり取り組むことになった課題である。①栽培圃場の環境条件調査及び赤さび状の症状は状況調査等を実施し、発生時期4月～5月で遮光率の低いハウスで多いことがわかり、適切な遮光管理の普及指導を行った。②栽培・病害虫防除対策の指導で、ヨトウムシ類による被害を抑えることができた。</p>	<p>(1) 「八丈フルーツレモン」の商標登録をめざしているが、生産量の安定供給が求められる。栽培マニュアルの普及定着、島内外の新規就農者の育成及び就農支援が必要である。</p> <p>(2) キキョウランについては、これからの切り葉、切り枝等の需要動向を踏まえて、経営的に自立できる経営モデルの策定、指導が求められる。</p> <p>(3) 上記の新規作物を含め、島の農業資源を活用した加工及びマーケティングを視野に入れた、JAをサポートする新たな事業体を立ち上げ、八丈島全体での推進を図ることも検討してもいいのではないか。</p>	<p>八丈町の農業産出額は1,782百万円。うち、切葉・切花・観葉鉢物など花きが87%を占めるが、果樹はわずか1.5%に止まっている。しかし、果樹は「島おこし」を狙う特産品の育成や観光業と連携するお土産品の開発において、収益を見込める重要な農産物として期待が高まっている。</p> <p>(1) 「八丈フルーツレモン」の生産拡大について、令和元年度、八丈事業所では、これまでの試験研究成果や生産出荷部会の取組実績等をまとめた「栽培マニュアル(暫定版)」を作成・配布した。次年度からは、これを活用して栽培技術の平準化による果実の高品質化及び生産量の増加による安定供給に取り組んで行く。</p> <p>また、新規就農者の育成については、これからも八丈町役場が運営する八丈島担い手育成センターを活用した就農支援の継続・充実を支援する。</p> <p>(2) キキョウランは、フラワーアレンジ用定番花材の1つとして定着しつつあり、安定した需要が見込まれる。そこで、レザーファン・ルスカスとともに東京都農業振興プランの「地域の農業を担う経営モデル」を実現するための主要品目と位置づけ、八丈町における切葉類の市場出荷経営の向上を指導する。</p> <p>(3) 都は現在、加工商品の開発、マーケティング、経営改善へのアドバイス等について、「チャレンジ農業支援事業」により魅力ある農業経営の展開を図っている。八丈町においても本事業等の活用を勧めるなど、新たな視点を活かした島しょ農業振興対策について、その施策事業化に取り組んで行く。その際は、普及指導センターが地域コーディネーターとしての役割を果たして行く。</p>

総合評価 A：高く評価できる B：概ね評価できる C：見直しが必要

その他の自由意見

島のオリジナル品目であった、レイ・プランツの生産推進については、特殊需要であり、規格の変更など季節変動も大きく、JAからの提案もあり、5か年の普及計画を3か年目で見直し、単年で取り組む短期課題として指導するという説明があった。「計画を立てても販売の見込みが薄い場合、それを普及活動としてずっと続けていくのではなく、ある程度そこで打ち切りにして、新しい作物に変更することは適切な判断である」という委員からの評価があった。